

原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778長期前兆続報 前兆一部終息せず 時間がかかる可能性有
6/20迄に終息の場合=6/23± 6/21以降顕著継続の場合は再考必要

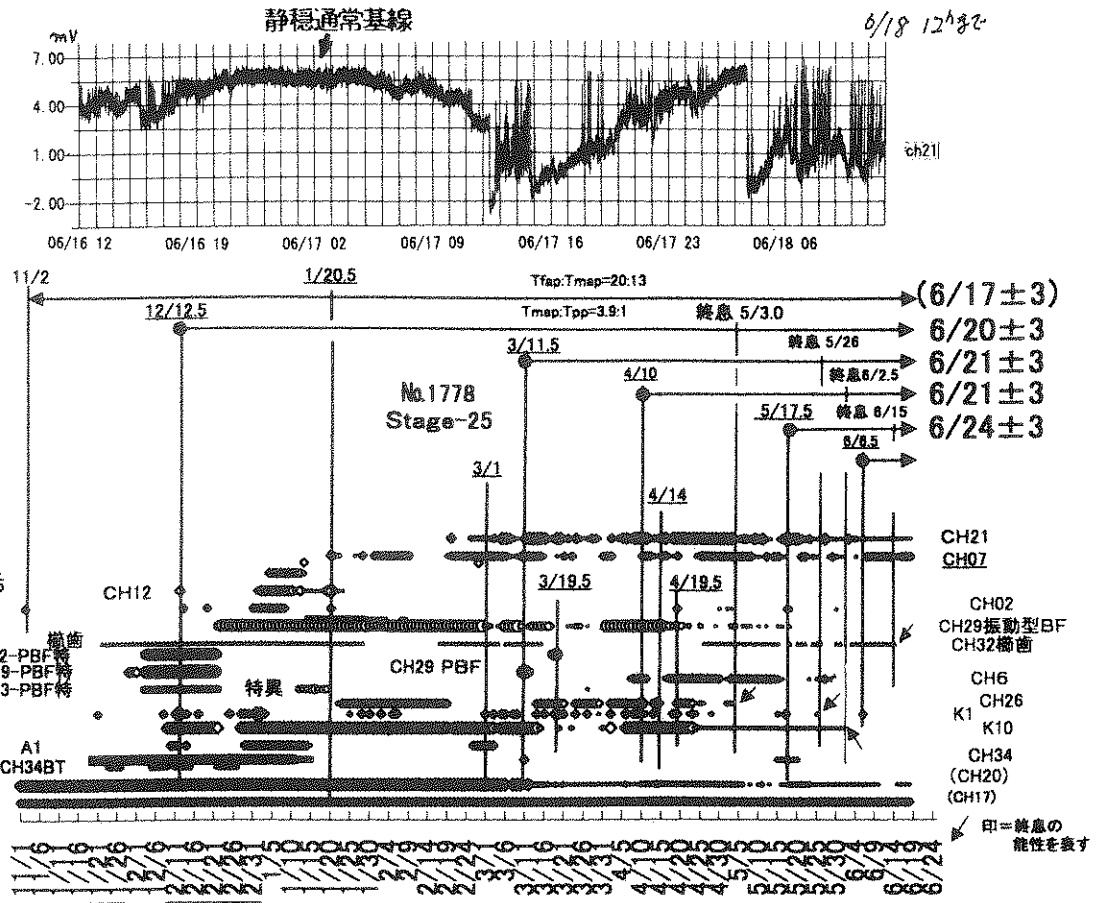
長期継続前兆No.1778は前回報告のとおり、前兆は静穏化傾向に見え、前兆の出現～極大 極大～終息等の関係認識から、最も早い場合の可能性として06月19日・20日が考えられました。但し6/18以降も前兆が継続した場合は再考としました。

右上波形はハヶ岳のCH21ですが、6/16～17昼近くまで20時間近く静穏基線を記録し、このまま静穏化するかに見えたが、17日午後そして18日本日未明から再び前兆が再出現しました。糸状態ではありませんでしたが本日18日 13:35頃より糸状態特異出現中。

余震の多い地震では前兆が完全に終息しない過去例がありますが、現在CH21の基線不安定特異前兆の他、CH07が糸状態として継続していることから、余震のために続いているのではなく、現在の推定発生時期認識が誤りである可能性が高いと考えられます。

前兆関係の組み合わせを見直し、最も早い場合の可能性として、6月23日±2の可能性が考えられますが、この場合は、6月20日±迄に前兆が終息することが条件となります。仮に

6月21日以降も前兆が顕著に継続し続けた場合は、6月末以降となる可能性も出てまいりますので、今後の前兆変化を観測し、再考し、続報させて戴きます。現在の状況からは6月19日～20日時期に発生する可能性は否定出来ず。



- ◆推定領域：前号地図参照（長野中北部～群馬・栃木・新潟福島の一部含む）
- ◆推定規模：M7.8 ± 0.5 日本列島陸域地殻地震 震源浅い 火山にやや近い領域の可能性有
- ◆推定時期：最も早い場合6月23日±2（6月20日迄に前兆終息の場合）継続の場合は修正必要
6月21日以降前兆継続の場合は6月末以降となる可能性があるため、再考し続報させて戴きます
- ◇推定発生時刻：午前9時30分±1時間30分 又は 午後4時±3時間

※11年続く過去例の無い特殊な前兆のため、最終段階認識ですが、難しい状況です。地震の推定内容及び根拠等についてはNo.266 に別紙として4枚の資料を掲載しておりますので、ご参照下さい。